

施設整備候補地の三次選定評価項目について

1. 総合評価（三次選定）について

二次候補地に対し、現地踏査による二次候補地の現況確認、概略施設配置の検討等を行い、総合評価によりランク付けを行うことで、よりごみ処理施設の建設に適している土地として評価した最終候補地 1 箇所を選定する。

- 【総合評価の手順】
- ①二次候補地の現地踏査
 - ②二次選定までの評価項目について、現地踏査結果を踏まえ再評価
 - ③概略施設配置図の作成
 - ④概略施設配置図に基づき、建設適性や経済性を評価
 - ⑤各評価結果に基づき、最終候補地 1 箇所に絞り込み

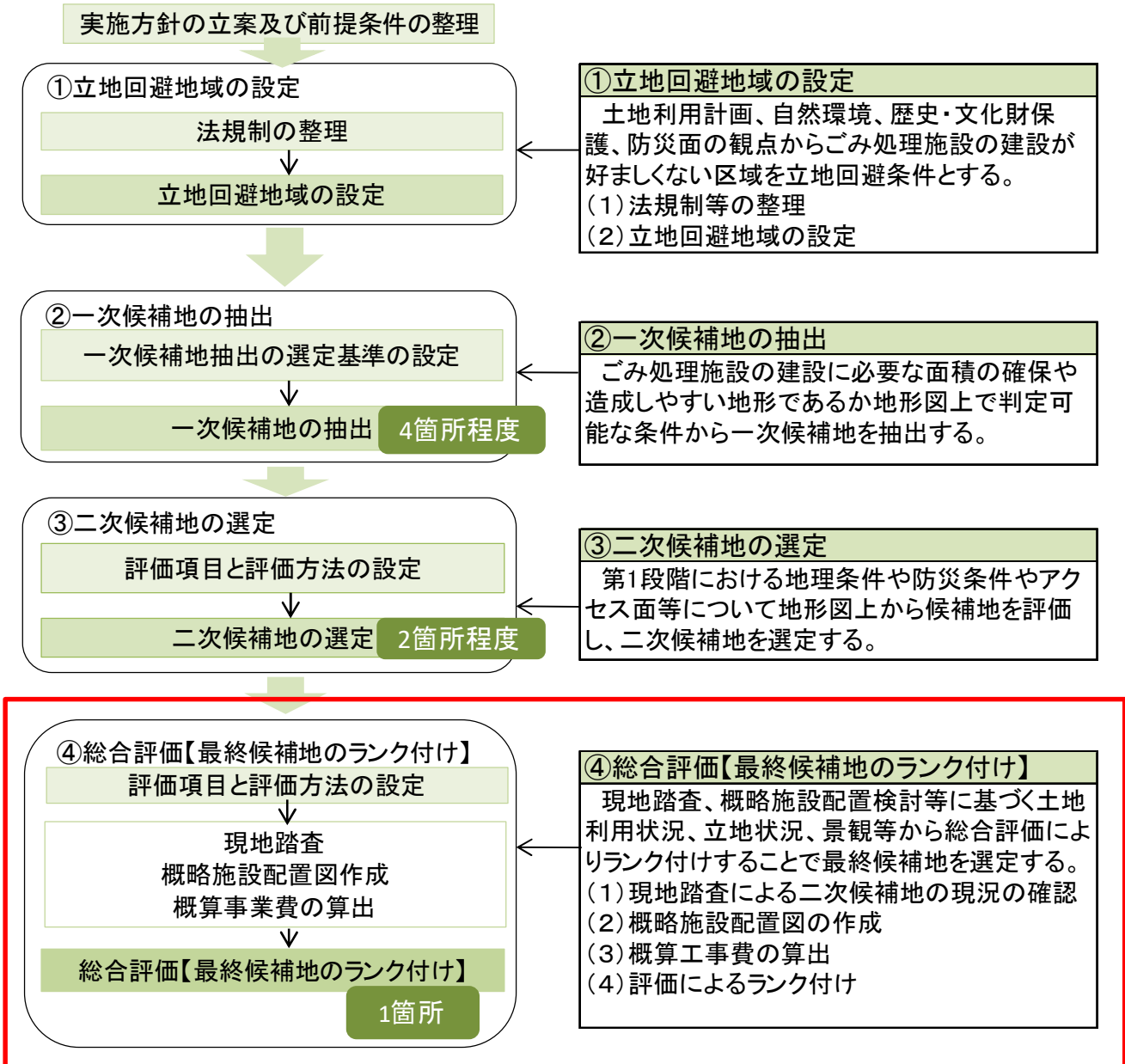


図 1 選定フロー

2. 評価項目の設定

総合評価における評価項目は、二次候補地に対して、二次選定までの評価項目の再評価および現地の状況や概算事業費などの視点から総合的に評価するため、以下の視点で評価を行う。

■三次選定における視点

- (1) 立地条件（候補地の地形条件や道路までの距離等の立地に係る条件かどうか）※
- (2) 自然環境（地域を取り巻く地勢や天候といった自然に関連する条件かどうか）※
- (3) 社会・生活環境（地域の土地利用状況や人口、生活環境に係る条件かどうか）※
- (4) 防災（地形・地盤等に起因する自然災害での影響があるかどうか）※
- (5) 経済性（建設費用が安価であるか）
- (6) 用地取得の見込み（用地取得について課題があるか）

※ 二次選定までの評価項目

3. 評価項目（案）

総合評価における評価項目（案）を表1～表2に示す。

表1 総合評価の評価項目（1）

分類	評価項目	内容	二次選定の 評価項目	現地踏査 に基づき 評価	施設配置図 に基づき 評価
立地条件	地形	地形がいびつ等により、施設配置や車両動線に影響がないか評価する。		○	
	搬入道路からの距離	候補地から幹線道路（車道の幅員が5.5m以上の公共道路等）までの距離及び拡幅の必要性を評価する。	○		
	収集運搬効率	各候補地における収集運搬効率を評価する。		○	○
自然環境	植生自然度	群落の自然性がどの程度残されているかを示す一つの指標である植生自然度を評価する。	○		
	重要な動植物の生育・生息地からの距離	重要な動植物の生育・生息域（国・県・市指定の天然記念物（植物及び動物））の生育・生息地から各候補地までの距離について評価する。	○		
社会・生活環境	土地利用状況	現況の土地利用状況を航空写真や現地調査で判断し候補地の現況状況について評価する。	○	○	
	農業振興地域	農業振興を図るべき地域に該当するかを評価する。	○		
	公共施設からの距離	静穏な環境を保全する必要がある公共施設（学校、保育園、幼稚園、病院、福祉施設、図書館）から候補地までの距離を評価する。	○	○	
	周辺民家からの距離	候補地からの最も近い民家への距離を評価する。	○	○	
	収集運搬による渋滞への影響	収集運搬車両の通行により、施設の周辺道路において渋滞発生等の影響を評価する。		○	○
	周辺景観との調和	周辺景観と調和がとれるかを検討し、評価する。		○	○

表 2 総合評価の評価項目 (2)

分類	評価項目	内容	二次選定の 評価項目	現地踏査 に基づき 評価	施設配置図 に基づき 評価
防災	液状化対策	液状化対策が必要か、必要な場合どの程度の規模の対策が必要か評価する。		○	○
	洪水・高潮、津波対策	施設の安定稼働及び早期復旧が可能なるように、対策規模を検討し、評価する。	○		
経済性	概算敷地造成工事費	概略施設配置検討図から概算の敷地造成費を算出し評価する。			○
	用地取得費	用地の取得費用について評価する。			○
	事業費リスク	その他事業費を増加させる要因の有無について評価する。		○	○
	用地取得の見込み	用地の取得にあたっての難易度を地権者数等から評価する。			○